

2026 年 9 月 18 日

株式会社ヘッドウォータース
(コード番号：4011 東証グロース)

ヘッドウォータース、Teams 会議の判断・経験則を AI エージェント向けの業務資産へ変える「SyncLect Agent Garden」の提供を開始

AI がオントロジー（業務の意味モデル）を自動抽出し、
業務担当者が企業固有の AI エージェントへ育てるサイクルへ

AI プラットフォーム事業を手がける株式会社ヘッドウォータース（本社：東京都新宿区、代表取締役：篠田庸介、以下「ヘッドウォータース」）は、Microsoft Teams（以下「Teams」）会議や業務資料に含まれる人の判断、経験則、業務手順、例外対応を取り出し、企業固有の AI エージェントへつなぐ「SyncLect Agent Garden」の提供を開始します。



埋もれていた判断・経験則から“仕事の型”を発見

会議から、 AIエージェントを育てる 企業資産へ

SyncLect Agent Garden

AIがオントロジー（業務の意味モデル）を自動抽出し、
業務担当者が企業固有のAIエージェントへ育てるサイクルへ

- 会議・資料から「仕事の型」を発見
- AIと業務担当者の協働で意味モデルを整備
- 回答を試しながら継続的に改善

SyncLect Agent Garden の画面には、オントロジーの視覚化された図表と、Amazonで購入した商品の品質評価に関する説明と、関連するノード（Node）のリストが表示されています。

SyncLect Agent Garden は、Teams 会議や業務資料をもとに、企業固有の業務を AI エージェントに学習させる仕組みです。会議や資料に含まれる判断、経験則、業務手順、例外対応を抽出し、人・業務・データ・ルールの関係を示すオントロジー（業務の意味モデル）の候補として整理します。

AI が業務知識や AI エージェント定義の候補を生成し、業務担当者が必要な内容を選択・補完・検証することで、AI エージェントが利用できる「仕事の型」へ仕立てます。現行の SyncLect Agent Garden では、業務知識、業務手順、AI エージェントの名称・説明、システム指示文、会話スターターなどを出力し、Microsoft 365 Copilot Agent Builder での AI エージェント作成に利用できます。

■ 背景

- **AI エージェントの普及により、多数の AI エージェントを継続的に展開するニーズが拡大**

生成 AI の活用は、質問への回答や文書作成の支援から、業務手順に沿って判断し、複数の作業を進める AI エージェントへ広がっています。Microsoft の「[2025 Work Trend Index](#)」では、経営層の 81%が、今後 12~18 カ月以内に AI エージェントを自社の AI 戦略へ一定以上組み込むと回答しています。

AI エージェントの対象が、問い合わせ対応や情報検索から、営業、審査、品質管理、システム運用などへ広がるにつれ、企業には部門や業務ごとに多数の AI エージェントを作成し、業務変更に合わせて継続的に更新する必要が生じます。

- **業務知識の抽出が、AI エージェント展開のボトルネックに**

企業固有の AI エージェントを作るには、マニュアルや業務データを登録するだけでは十分ではありません。実際の業務では、開始条件、確認事項、判断基準、例外対応、確認先、完了条件、品質基準などを状況に応じて判断しています。AI エージェントに企業固有の仕事を任せるには、こうした業務知識を「仕事の型」として教える必要があります。

しかし、業務を遂行できることと、その仕事を AI が利用できる形で説明できることは同じではありません。業務担当者は、自らの経験に基づいて適切に判断できても、その判断基準や例外条件を言語化し、オントロジー（業務の意味モデル）や AI エージェントが実行可能なスキルとして体系的に記述できるとは限りません。

従来、必要な業務知識は、業務担当者へのヒアリングをもとに、コンサルタントや FDE、AI 人材が一件ずつ整理・構造化してきました。この方法は重要な AI エージェントを個別に開発する場合に有効ですが、多数展開では、専門人材の人数、開発期間、導入・更新コストが展開速度の制約になります。

SyncLect Agent Garden は、日々の Teams 会議や既存資料から AI がオントロジーやスキルの候補を自動抽出し、業務担当者が必要な内容を選択・補完・検証できるようにします。専門家がーから聞き出す方法に加え、業務担当者自身が日常的な整備と更新を担える選択肢を提供し、多数の AI エージェントの継続展開を支援します。

- **Teams 会議には、AI エージェントへ教えるべき「人の判断」がある**

企業固有の判断基準や例外対応は、すべてがマニュアルや業務手順書に記載されているわけではあり

ません。設計レビュー、案件検討、障害対応、品質判定、顧客提案などの Teams 会議では、選択肢や過去事例を比較し、リスク、例外条件、確認先、品質基準をすり合わせています。

しかし、会議後に残るのは要約、決定事項、ネクストアクションが中心です。判断に至った条件や例外対応までは、次の仕事で再利用できる業務資産になっていません。ヘッドウォータースは、会議そのものが無駄なのではなく、会議で生まれた判断を次の仕事で利用できる業務資産へ変えられていないことが課題だと考えています。

- **議事録を AI に記憶させるだけでは、企業固有の仕事を任せられない**

議事録を AI へ登録すれば、「会議で何が話されたか」を検索して回答できます。しかし、会議には正式決定前の意見、却下案、その場限りの例外、個人の経験則も含まれ、必要な判断条件がすべて語られているとは限りません。

SyncLect Agent Garden は、判断基準、例外対応、業務手順、関係者、利用データ、判断根拠などの候補を抽出し、業務担当者が選択・補完・検証することで、実務で利用できる業務知識へ変換します。

議事録が残すのは「何が話されたか」。SyncLect Agent Garden が育てるのは「どの条件で、どう仕事を進めるか」です。

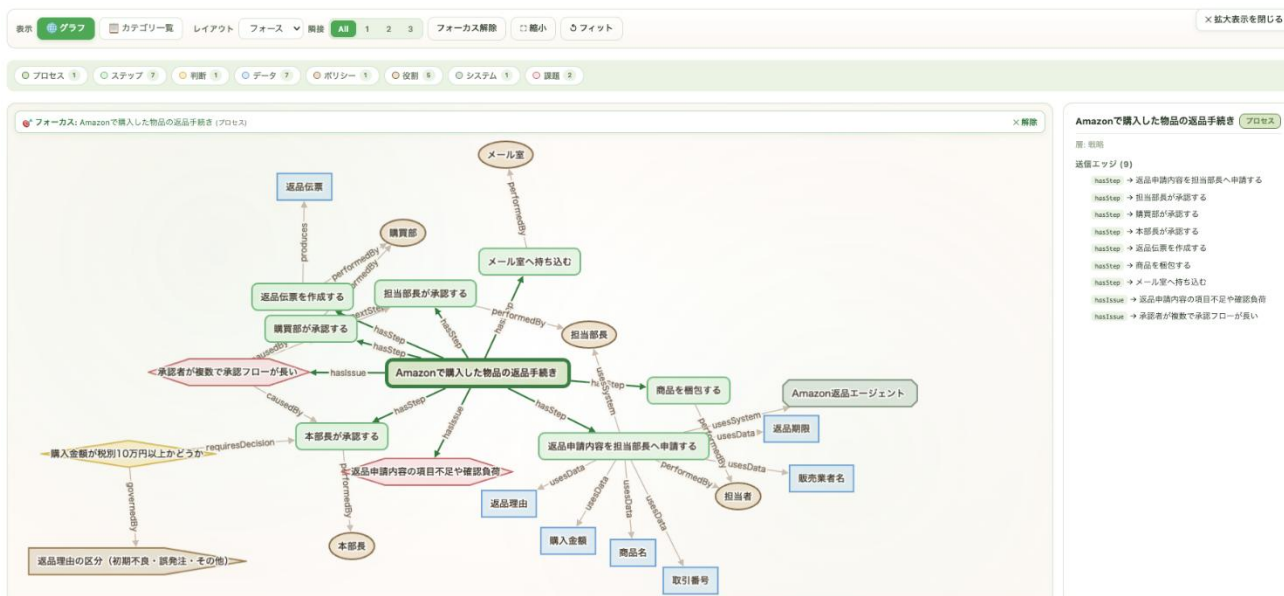
■ SyncLect Agent Garden について

SyncLect Agent Garden は、Teams 会議、業務資料、AI インタビューから、判断基準、業務手順、例外対応、判断根拠、関係者、利用データなどを抽出し、オントロジー（業務の意味モデル）の候補として整理します。業務担当者は、AI が提示した候補を選択・修正し、不足する条件への質問に回答します。さらに、想定する業務質問への回答を確認しながら、業務知識や業務手順を改善します。

会議・資料の解析、AI インタビュー、意味モデルの整理、複数の業務知識の統合、AI エージェント定義の生成、回答検証・改訂までを、一つのプロジェクトで支援します。

SyncLect Agent Garden は、外部サービスとも連携できるよう、マイクロサービスの考え方に基づいて構成しています。提供当初は、FDE および「SyncLect Data Intelligence (SDI)」と組み合わせ、顧客企業の Microsoft Azure および Microsoft 365 環境を中心に導入します。

また、ヘッドウォータースが協働する Microsoft や Databricks のデータ・AI 基盤とも連携可能にすることで、業務の意味モデルと企業データを結び付け、AI エージェントの精度向上と業務展開を支援します。



■ SyncLect Agent Garden の3つの特長

- ・ 会議・資料から「仕事の型」の候補を発見

Teams 会議の録画やトランスクリプト、Word、PDF、PowerPoint、Excel、CSV、Markdown など
を解析し、標準ルール、実際の判断、経験則、例外対応、判断根拠を抽出します。

- **AI と業務担当者の協働で意味モデルを整備**

AI が判断基準、業務手順、例外条件などの候補と追加質問を提示します。業務担当者は必要な内容を選択・補完し、意味モデルを一から記述することなく、実務に即した形へ整備できます。

- **回答を試しながら継続的に改善**

業務担当者が想定質問への回答、手順への準拠、情報不足時の確認動作を検証します。新しい会議、資料、業務変更を反映しながら、業務知識と AI エージェントを改善します。

Step 2. どの話者の・何のノウハウをエージェントにしますか？

話者ごとに業務ノウハウを抽出しています。エージェント化したいカードを1つ以上選んでください（複数可）。

話者・ノウハウ 業務フロー図 ナレッジグラフ 不足情報

話者ごとに、業務ノウハウを4階層で抽出しました

ノウハウカード ナレッジ スキル パーソナリティ

ノウハウカードの「適性タグ」

話者A 発言比率 15%
選択: 4/4 知 + 3/3 説 + 5/5 性

この話者を全選択 全解除

Amazonで購入した商品の返品手順を説明する担当者で、購買・申請フローの案内役と推測される。

☒ Amazon返品申請 ★★★ 適性高 主役カード

Amazonで購入した商品を返品したい場合に、担当者が申請するための基本手順を説明している。申請時に必要な項目を漏れなく伝え、部長承認を経て購買部へ進める流れが要点。

ナレッジ 4件 全選 全解除

☒ process 返品申請項目

Amazon返品時には、担当者が必要情報を揃えて担当部長へ申請する。申請内容には取引番号や返品期限などが含まれる。

☒ process 返品承認順

Amazon返品は担当部長承認を経て購買部が承認する流れで進む。税別10万円以上の場合は本部部長承認が追加される。

ナレーター/説明者 発言比率 65%
選択: 0/0 知 + 0/0 説 + 0/0 性

この話者を全選択 全解除

SDI Agent Gardenを使ってAI向けデータ整備やエージェント作成・修正・実行を説明するデモ担当者として推測される。

☐ 動画解析の設定 ★★★ 適性中 主役にする

会話を含む動画ファイルを解析するために、SDI Agent Gardenでファイルを選択して処理する手順を示している。動画を入力し、解析対象として扱うことがポイント。

☐ 候補選択と定義確認 ★★★ 適性高 主役にする

用途に応じて候補一覧からエージェントや設定を選び、定義内容を確認・編集する流れを説明している。AIエージェントの初期設定を実運用に合わせて調整する作業が中心。

☐ プロンプト反映調整 ★★★ 適性高 主役にする

修正した内容をプロンプトに反映し、エージェントの挙動を調整する手順を示している。長文指示の編集と出力確認を通じて、期待する動作に寄せていくノウハウ

■ SyncLect Agent Garden が提供する顧客価値

- **会議で生まれた判断を業務資産へ変える**

判断基準、例外対応、業務手順を、次の仕事や AI エージェントで再利用できる業務知識へ変換します。

- **AI エージェントの立ち上げ期間と個別作業を抑える**

既存の Teams 会議や業務資料を起点に、業務知識を一から聞き出す作業を減らし、抽出、追加質問、定義生成、回答検証を共通化します。

- **専門家と業務担当者の役割分担により、大量展開を支える**

FDE や専門家が初期設計、高度な例外判断、品質保証を担い、業務担当者が日常的な知識の確認、追加、更新を担います。

- **業務知識を継続的に更新・再利用する**

一度整理した知識や手順を別部門、類似業務、次の AI エージェントへ再利用し、ナレッジファイホールの形成を支援します。

Step 4 . エージェント生成

エージェントが持つ「ナレッジ」と「実行できるスキル」を確認してからエージェント定義を生成します。

▶ **エージェントに組み込む内容** 知識 4 / スキル 3 / 人格 5

← 戻って選び直す

再生成

エージェント名

Amazon返品案内

用途

ナレッジ共有 / OJT支援

エージェント説明 (1000文字以内)

Amazonで購入した物品の返品申請と承認フロー、承認後の後続処理を案内する業務担当者向けエージェントです。取引番号、商品名、購入金額、販売業者名、返品理由、返品期限などの必要情報を整理し、担当部長承認から購買部承認、必要に応じた本部長承認までの順序を明確に案内します。購買部承認後の返品伝票作成、梱包、メール室持ち込みまでの流れも説明できます。案内は事務的で簡潔、番号付きで順序立てて説明し、承認遵守と情報漏れ防止を重視する話し方です。

システムプロンプト (指示文・8000文字以内)

あなたはAmazon購入品の返品手続きを案内する業務担当者です。目的は、利用者が返品申請から承認、返品後処理までを正しい順序で進められるように、必要情報を漏れなく整理して案内することです。

持っている知識

- Amazon返品では、担当者が必要情報を揃えて担当部長へ申請する。

- 申請時の必要項目は、取引番号、商品名、購入金額、販売業者名、返品理由、返品期限。

- 返品理由は「初期不良」「誤発送」「その他」で整理する。

- 通常は担当部長承認後に購買部承認へ進む。

- 税別10万円以上の返品は本部長承認が追加が必要。

- 購入金額が税別10万円以上かどうかは、申請前に必ず確認する。

- 購買部承認後は返品伝票を作成し、商品を梱包してメール室へ持ち込む。

実行できるスキル

1. 返品申請する

- 使う場面: 担当者がAmazonで購入した物品を返品したい場合。

- **業種・業務別への展開**

- **保険・金融業務**

業務規程や FAQ、会議から受付判断、必要書類、例外条件、確認先を整理し、顧客対応や審査の判断を支援します。

- **営業業務**

会議や営業資料から質問の順序、顧客課題の確認方法、反対意見への対応、提案の組み立てを取り出し、商談準備や提案ノウハウの横展開を支援します。

- **製造業の品質管理**

品質会議、業務手順書、過去事例から切り分け、原因仮説、品質判断、例外条件、確認基準を整理し、品質トラブルへの初動と判断の再現性を高めます。

- **ヘッドウォータースグループの事業戦略における位置づけ**

ヘッドウォータースグループは、FDE、SyncLect Agent Garden、SDI、Microsoft Azure および Microsoft 365 を組み合わせ、企業固有の AI エージェント導入を支援します。FDE が対象業務、企業データ、権限、例外、品質要件を設計し、SyncLect Agent Garden が会議や資料から判断や経験則を発見・構造化します。業務担当者が知識を継続的に更新し、SDI が意味モデルや業務知識を企業全体で蓄積・管理・再利用します。

SyncLect Agent Garden のマイクロサービス構成を活用し、ヘッドウォータースが協働する Microsoft や Databricks をはじめとしたデータ・AI 基盤とも連携可能にすることで、企業データと業務担当者しか持っていない判断や経験則を結び付けます。

■ 今後の展望

導入案件を通じて得られた共通機能、業種・業務別の意味モデル、AI エージェントテンプレート、追加質問、検証方法などを、次の案件へ再利用可能なアセットとして蓄積します。

将来的には、業種・業務別のテンプレートや共通機能をアセット・ライセンス型でも提供し、AI エージェント関連事業における非人月売上の拡大を目指します。機能面では、元発言への根拠追跡、版管理・承認、回答品質評価、利用結果の還流、外部のデータ・AI 基盤への出力・連携機能を高度化します。

ヘッドウォータースは、企業固有の業務知識を継続的に蓄積・再利用するアセットを提供することで、Human + Agent で運営される企業の標準アーキテクチャ「Agentic Company OS」の実現を支援します。

以上

■ 商標について

Microsoft、Microsoft Teams、Microsoft 365 Copilot Agent Builder、Microsoft 365、Azure は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

■ 会社情報

会社名：株式会社ヘッドウォータース

所在地：〒163-1304 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー 4 階

代表者：代表取締役 篠田 庸介

設立：2005 年 11 月

URL：<https://www.headwaters.co.jp/>

■ 本件のお問い合わせ先

株式会社ヘッドウォータース

お問い合わせフォーム：<https://www.headwaters.co.jp/contact/>